

わたしたちは「自然と環境の保全是足元から！」をモットーとしています。

No.15

おいしーOEC
ニュースレター

April, 2010



新年度が始まりました。今年度もどうぞ宜しくお願いします！

OEC発足の紹介



漫湖がラムサール条約の登録湿地になることに向けて、「これからの漫湖について考えよう！」と一九九九年四月、フォーラムが開かれました。行政関係者、研究者、市民活動家をはじめ、さまざまな人たちが、それぞれの立場で意見交換をおこないました。その後、このような機会を継続させようと、任意団体として『おきなわ環境クラブ』が誕生し、一般の親子が参加しながら自然環境について学び・楽しめる「場」を創ろうと、活動を始めました。

発足当初は、主に旧具志川市のマンガロブテラスや漫湖河岸とその周りの公園で、マンガロブやサガリバナなどの植樹や観察会、ごみや水質を調査するワークショップを開催しました。その後、二〇〇二年に法人格を取得し事務局体制を整備、中南部を中心とした観察会やエコツアーを実施し、行政や公益法人などの事業とも連携して活動を広げました。

OECは、四月より体制が新たに変わりました。裏面で、新しい会長を紹介していますので、是非ご覧ください。



那覇市国場川北岸河川敷
漫湖公園「サガリバナ」お手入れ

OECは、設立当初から、水辺の植物(サガリバナ)の植樹や鑑賞会をきっかけに、「水辺環境の大切さ」や、「私達にもできること」を伝え、参加者(地域の大人や子ども)に、身近な自然環境にもっと興味を持ってもらえよう、多くのワークショップを実施してきました。昨年は、特に「MYキープ大作戦」で植樹したサガリバナの定期的なお手入れと現状調査にも力を入れ、会員や地域の方達と一緒に活動をおこないました。

この一年間、何度も現場に足を運ぶことで、たくさんの方に気が付きました。例えば、河川敷に生える外来種のギンネムの除去に大変な労力と時間がかかり苦労をしています。一方で、管理者のオーナーの方と密にコンタクトが取れたこと、また私達の活動に賛同して新たに会員になってくれる方が増えるなど、嬉しいこともあり、小さな一歩ですが、色々と収穫できた一年となりました。

今号では、これまでの「サガリバナお手入れ活動」様子を大きくご紹介したいと思います。

平成 21 年度 自主事業地域向け活動



初めてのチェインソーに手が痺れました。作業の後は、見違えるほどの景観！



河川敷の雑草を手鎌や草刈機で除去します。皆さんと一緒に、気持ちのよい汗をかきました。



国場川北岸河川敷「サガリバナお手入れ」活動



参加者の皆さんと記念撮影。毎回、参加者が増えています。皆さんの熱意に脱帽です。



熱心にお手入れをしている方のサガリバナには、花が咲き、次の世代の種子が見られます。



サガリバナの樹高や花の付き具合など成長の状態も一本一本、調べました。



第7回 サガリバナお手入れと「海浜植物」の植栽プロジェクト！

十メートルの範囲を実験区に、宿敵ギンネムの根切作業と海浜植物の植栽をします。そのギンネムの根切をした一つ一つは、写真に収めて記録し、その後、成長が抑制されるかどうか、モニタリングをしていきます。



ガンバイヒルガオ



ハマユウ



ホタンボウフウ

- 植栽する海浜植物たち -



種子から育て準備万端！

何度刈ってもまた生えてくる根強い外来種「ギンネム」の成長を抑える為に、元来、沖縄に生育している海浜植物を植栽し、沖縄にもともとあった水辺環境の再現を目指そうと、三月二十日(土)にはじめての実験をおこないました。



世界の侵略的外来種ワースト100リストに入るといふギンネム

実験段階ということもあり、試行錯誤でのスタートでしたが、参加者の皆さんの協力のもと、一緒に気持ちの良い汗をかきながら、作業を楽しみました。



植え付け作業は、草刈よりも楽しいわぁ♪

根切作業を終えた後は、実験区に、海浜植物のガンバイヒルガオ、ハマユウ、ボタンボウフウを、一定の間隔に植栽しました。



大物の根でした！



ギンネムの根は、力強く根切りが大変！



参加者募集！
国場川河口域ワークショップ
ご参加お待ちしております！

この活動は、サガリバナを元気にするために、下草刈り作業や追肥作業をおこなっています。また新たに海浜植物の植栽も加わり活動が広がっています。沖縄の水辺環境再生に参加しませんか？お待ちしております！

【日程】

第八回 五月十五日(土)

第九回 七月十日(土)

第十回 九月十一日(土)

【時間】午前 十時～十二時

※用具はOECで用意致します。



将来の那覇市国場川河口域のサガリバナ
イラスト：吉川さん

このプロジェクトでは、たくさんの新しい挑戦を予定しています。時間をかけて、地域の皆さんと一緒に、意見交換をしながら取り組んでいきます。

研究員 上田絵理奈

受託事業の活動も紹介しましょうね～

港川小学校で、沖縄県のゴミの現状やゴミ減量方法、地球規模のゴミ問題についての講話を行いました。

講話の中で、海にゴミ埋立地を造っているとの現状を聞いて、「きれいな海を埋め立てるなんて悔しい」と感じてくれた生徒さんもいました。リデュース(減らす)、リユース(再利用)、リサイクル(再利用)の3Rに、リフューズ(断る)を加えた4Rの紹介がありました。すぐリサイクルを考えるのではなく、最初からゴミを出さないようにする工夫や努力が大事なんです！

また、日本には中国や韓国からのゴミが、太平洋の島では日本からのゴミが流れていることを話し、ゴミの問題が自分たちの国だけのことではないことを知ってもらいました。「いい地球を次に残すために、環境の事、自然の事を考えて生活して下さい」と講師からメッセージがありました。

最後に風呂敷でマイバッグを作る方法を紹介し、ミニ地球を作ってプレゼントして、私達が出した汚い空気、汚い水は巡り巡ってまた私達に帰ってくる」と説明し、地球の循環環境について考える機会となりました。



研究員 金城美夏



沖縄県地域環境センター
第八十一回環境啓発活動 出前講座
「私たちの生活と「3R」」



ベリーズ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネーヴィス、セントルシアにおいて、観光開発の企画や観光振興に従事する行政職員が、沖縄県内各地において講義や視察、実習を通して自国の観光について振り返ったり、意見交換をおこなったりして「持続可能な観光開発」を考える機会となりました。また、講師の方々のご協力により、研修員にとって満足度の高い研修となりました。中でも、地域の特徴を活かした観光や観光分野の人材育成などについて、関心の高さが伺えました。各研修員は、帰国後に取組む行動計画を作成して、六週間の研修を無事に終えました。

今回は三年間の研修コースの最終年度でしたが、この三年間でカリコム諸国の九カ国から二十五名の研修員を迎え、自国の観光資源を適切に管理しながら地域経済を発展させる為の実施可能な行動計画を作成する人材を育成してきました。沖縄で共に過ごした経験を活かし、帰国した研修員達が、現地でも協力して観光の発展に取り組んで欲しいと思います。なお、次年度からは新たに三年間のコースを実施する予定です。

研究員 三浦弘之

OECDでは、JICA 沖縄国際センターと共に、二〇〇四年から六年間にわたり、開発途上国でエコツーリズム開発に取り組む二九カ国五八名に、県内外の関係者と協力をしながら研修の提供をしてきました。

カリブ海に位置するドミニカ共和国（以下、ド国）は、国全体でエコツーリズム推進に取り組むこともあり、毎年、沖縄に研修員を派遣し、個別研修も合わせると、これまでに十名の方々と一緒に勉強をしてきました。彼らは、中央省庁（環境省・観光省）や現場でエコツーリズムに取り組むNPO など、様々な立場の方々でしたが、帰国後、沖縄で得たヒントや自分自身で作成したアクションプランに従い活動を展開してきました。

帰国後の活動の中で、彼らは、改めて、地域の方々が、足元にあるエコツーリズム資源の価値の認識や情報整理、情報提供の方法等について、より理解を深め、技術を身に付ける必要がある、と考え、特に、自然や地域文化が残るエンリキージョ地域（以下、南西部）の十地区十六名を対象とした研修を立案しました。今回の研修は、ド国観光省・環境省、JICA（本部・沖縄・ド国事務所）、他国の国際援助機関三団体がそれぞれ資金提供をおこない実現されたことも大きな特徴の一つで、これらの支援機関への働きかけは、帰国研修員が協力し合って自らの行動した結果です。

南西部は、隣国ハイチにつながる場所に

位置し、沖縄と同様、サンゴ礁が隆起・沈降してできた地形です。特徴として、海岸から山岳地帯に至る様々な植生の移り変わりが、短時間の移動で観察できます。山岳地帯の国立公園には、観察用の小道が整備されており、バードウォッチングや植物が楽しめます。また湖沼で、ボートを使ったツアーやトレッキングで、水鳥やイグアナ、サボテンの観察、昔の人が描いた壁画も楽しむ事ができます。マングローブ域では、素足で白い泥を感じながら、そこに棲む水鳥（特にフラミンゴ！）が観察できます。海岸では、きれいなビーチを楽しむ場所もあります。そして何より、地域の方々の食文化とダンス、人々の生きるエネルギーに満ち溢れていることが印象的です。



沖縄研修のフロアアップとして、彼らが企画した研修に、沖縄から、JICA 沖縄担当職員、琉球大学観光学科の先生、当クラブ職員の三名が、一週間の研修に参加し、「世界や日本、沖縄のエコツーリズムの動向」「インタープリテーション手法」「地域振興のための観光開発」などの講義を提供しました。また帰国研修員は、沖縄で経験した研修のミニ版を実施するので、その初めての研修運営の補佐や地区毎に

作成したアクションプランのコメントもおこないました。



研修では、各地区を移動しながらそれぞれの資源の特徴や今後の活用についても討議がおこなわれました。参加者は、これまで隣の地区を

訪問したことのない方が多く、この機会に、隣の現状を知り、自分の地区の資源との「違い」と「共通点」を理解することができたようです。「違い」は、その地区の特徴として再確認と売り込みができるようになり、「共通点」は、地域全体として連携を取りながらプロモーションができるのではないかと等々、自らの認識として理解が深まったようです。

帰国研修員が中心になって実施した研修は、南西地域や国全体のエコツーリズム関係者の心に新たな灯を灯しました。沖縄での研修との違いは、研修が終了した後も、すぐそばに、相談できる相手や仲間、そしてフロアアップしてくれる方々がいる、ということでした。気づきの多い二週間の学びの場でしたが、

地域産業を興す入口ができたばかりですので、今後の彼らの主体的な活動が楽しみです。沖縄で実施した研修の輪がすこしずつ世界に広がりがつつあります。これから沖縄が海外の方々や相互に磨き合える研修の場として交流を深め、知見を提供・発信していきたいと感じました。



事務局長 吉田透



幼少時より人一倍生き物好きだったの
でしょう。病弱気味な僕は、簡単に外にで
ることが出来ず、いつも生き物図鑑を片手
に窓越しの世界を眺めていました。大学で
は土壌生物学の大嶺哲雄氏、昆虫生態学の
伊藤嘉昭氏、公害原論の故宇井純氏の影響
を受け、更に沖縄の自然環境について深く
知りたくフィールドワークしていきま
した。しかし、知れば知るほど沖縄の現状が危機
的なものだど知るのに時間は掛かりませ
んでした。「やんばる」「白保」などの
保護活動や調査、抗議などの活動にも参加
してきましたが、現状は変わる事はありません
でしたが、一人の動きは小さくありま
せんが、社会や仕組みを変えるには及びま
せんでした。学生を卒業し月日は経ちまし
たが、OECのガイド養成講座に、やつと
三期生として学ぶ機会に恵まれました。
ガイドして感じる事は、自分の知らない
事が多いこと。知らないことに気付ける事
を大事にしながら、これからもガイドして
行きたいです。エコツアーガイドになれた
事も嬉しい事ですが、この講座で素敵なパ
ートナーに巡り逢えた事は最大の喜びで
す。お互いの経験をシェアする事で、抗議
や反対をするだけではない「ありのまま」を
伝える事で、参加者に響かせていけるガイ
ドのスタイルに成り
たいと想い、努力の
日々です。客観性を
保ちつつ、沖縄の現
状を伝える事を大切
にしながら頑張っ
ています！

沖縄エコツアーガイド三期生 與儀守剛

お知らせ



OECの役員

が変更されました

平成十一年（九九）四月設立のOEC
は十二年目に入ります。
初代の平川節子さん、二代目の上原千賀
子さん、三代目の大城逸朗さん、そして今
回四代目として下地邦輝が会長を務めま
す。

この四月から会長を含む保村さん、金城
さん、屋宜さん、吉田さん、上田さんの六
名が理事を務めます。

今後ともOECは、六名の理事とともに
吉田事務局長のもと川上、三浦、金城、上
田の研究員が環境教育を基軸とする活動
を展開していきます。

今年度も、OEC主催のワークショップ
をたくさん計画しています。随時、ホーム
ページや新聞等でお知らせしますので
是非ご参加下さい。



平成 21 年 第 15 回国場川水あしび
環境省 漫湖水鳥・湿地センター木道での観察会

新会長の抱負



「これから」のOECの活動

・沖縄の自然と環境の保全

当クラブ（OEC）は、子どもと大人が
実践活動をとおして、自然と環境について
理解を深めていくことをめざして設立さ
れ、この4月から十二年目に入りました。

設立以来『教育こそ最善の保全策』と考
え、環境教育を基軸に、植樹などの実践活動や
人材育成、教材・プログラムの開発、情報
の収集発信などの活動を続けています。

人の手によって自然と環境が壊され、汚
染されているのであれば、私たち一人一人が
それらについて、行動に結びつく理解（認
識）を深めることが最も大切なことだとい
えます。

沖縄の自然と環境、特に水辺の環境につ
いては、形の改変（埋め立てや過剰な護
岸）、水質汚濁（赤土、有機物、有害物質）、
外来生物（ヒメシロアリ、カタツムリ、カタツムリ）など、
かく乱があります。

行政がやらない（面倒くさい）事や企業
のやらない（儲からない）事、などについ
て、環境NPOのOECは、これらの課題
解決を目指して挑戦していきたいと思
います。



おきなわ環境クラブ 会長 下地邦輝



OEC宮古支部から宮古環境クラブへ

平成二十一年十二月十日、任意団体
『宮古島環境クラブ（MEC）』が設
立されました。約一年間にわたる
OEC宮古支部の実績を受け継ぎ、
宮古島から自然と環境の保全をめぐ
りて実践と情報を発信する活動を開始
しています。

電話/Fax: 〇九八〇七三三三〇七
住所: 〒九〇六〇〇一四
宮古島市平良字松原一二九番地

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

http://www.npo-oec.com/

〒902-0075

沖縄県那覇市国場 370-107

TEL:098-833-9493

FAX:098-833-9473

e-mail :kokuba@npo-oec.com

自然と環境の保全は足元から！

おきなわ環境クラブ（OEC）は、
水辺環境の環境保全活動をきっかけに、
地域の自然保護や環境保全の気づきが
広がることを目的とした、
子どもと大人の
NPO/NGO 団体です。

